

TOPIC

会津医療センター開設10周年記念事業を開催しました

令和5年7月22日(土)、会津医療センターは開設10周年記念事業としてシンポジウム及びレセプションを開催いたしました。

シンポジウムに約170名、レセプションに80名と多くの参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。

基調講演では、中国電力ヘッドコーチの佐藤敦之氏(2008年北京オリンピックマラソンオリンピック代表、会津若松市出身)から、マラソンシューズの進化による競技へのアプローチやデータによる健康管理についてお話いただきました。

また、基調講演に先立ち行われた会津医療センターのこれまでの取り組みや成果を紹介するセッションでは、医療関係者はもとより一般の参加者にも熱心に耳を傾けていただきました。

会津医療センター附属病院大田雅嗣病



院長は、「開設から10年が経過したいま、次の10年に向けてさらなる発展を図っていききたい。引き続き、近隣の医療機関との

連携を図り専門性を活かすことにより、会津で完結できる医療を実践していきたい」と明日を見据えました。

NEWS

末永恵子講師が第29回富士川游学術奨励賞を受賞しました

総合科学教育センター人文社会科学領域の末永恵子講師が、令和5年6月3日(土)、第124回日本医史学会総会において「第29回富士川游学術奨励賞」を受賞しました。

富士川游学術奨励賞は、受賞者のこれからの医史学研究の発展を期待することを目的として設立されたものです。授賞年から遡り3年前までの「日本医史学雑誌」に掲載された原著論文から、優れた業績に対して授与されるもので、授賞は各年度に1篇です。

今回受賞した論文は、「第一次世界大戦下における日本人衛生学者の軍事研究—戸田正三の欧州留学に注目して—」(『日本医史学

雑誌』第68巻第4号、2022年12月掲載)です。

この論文は、ヨーロッパ留学中に第一次世界大戦に遭遇した衛生学者戸田正三を取り上げ、その研究環境や人的交流、そして研究内容の解明を行うことにより、大戦が戸田に与えた影響について考察したものです。

医学者の戦争協力については、従来アジア太平洋戦争期を中心に研究がなされてきましたが、第一次世界大戦における医学者の軍事研究に注目した研究はほとんどなく本稿は先駆的な意味をもっています。

今回の受賞を受け、末永講師は「医史学研究の先駆者である富士川游にちなんだ賞を



いただき、たいへん光栄に存じます。これまで支えてくださった方々に感謝いたします。浅学非才の身ではありますが、研究への思いを新たに精進して参りたいと思います」と感想を述べました。

大戸斉副学長が昭和天皇記念学術賞を受賞しました

この度、大戸斉副学長が「昭和天皇記念学術賞」を受賞しました。輸血医学において、輸血治療の安全性向上に向けた臨床及び研究を継続実践してきたことや、献血血液の有効利用と輸血の安全性の向上及び適正輸血の推進を通じて血液事業に貢献してきたことが評価され、本受賞につながりました。

令和5年7月26日(水)に千葉市で開催された第59回献血運動推進全国大会の場にて表

彰式は執り行われました。

本受賞を受け、大戸斉副学長は「格式高い賞をいただき、恐れ多さと喜びが混じった気持ち。研究成果が世界的な研究につながり、多くの人にとって有益になればうれしい。今回の受賞で福島県立医科大学には世界に通用する研究、臨床、実践ができる環境があると証明されたと思う」と述べ、研究成果が世界的に恩恵をもたらすことに期待を込めました。



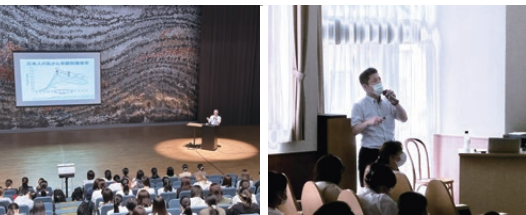
受賞理由となった主な功績は以下の通りです。

- 採血後3日間であった血小板製剤の有効期限を4日間に延長することを可能とした。また、酸素透過性の高い高性能バッグを共同開発し広域需給調整を容易とした。
- B型・C型肝炎ウイルスの母子感染防止を目的に、自治医科大学や筑波大学などの共同研究によりHCV感染のリスク因子を同定。その結果、HCV陽性率が著明に低下した。
- かつて日本で多発していた輸血後移植片対宿主病(TA-GVHD)について、全ての血液細胞製剤への放射線照射を提唱し日本からのTA-GVHD根絶に寄与した。
- 輸血の安全性向上のために、輸血学会認定医(1992年)、認定輸血検査技師(1995年)、学会認定・自己血輸血看護師(2008年)、学会認定・臨床輸血看護師(2010年)、学会認定・アフレーションナース(2010年)を学会責任者として導入し、適正な臨床検査と適正な輸血のための根幹的制度を整備した。
- 1991年に本学附属病院で同定不能な広範囲反応性抗体を日本赤十字社とともに検索し、既知の血液型関連抗体とは輸血血清学的に異なることを見出した。2018年に東京大学と共同研究でその遺伝子を同定しKANNO抗原はプリオン蛋白にあり、KANNO抗原陰性は東アジア人に特異的な赤血球抗原変異であることを発見。2020年には国際輸血学会によって37番目の血液型として認定され日本初の快挙となった。



TOPIC

学生がん予防サポーター養成セミナーに協力しました



大竹徹主任教授 郡山女子大学にて 立花和之進講師 福島学院大学にて

福島県は、大学生などの若い世代を対象に、がんに関する正しい知識の普及とがん予防や早期発見につながる行動への理解促進を図り、若い世代間の啓発活動を推進していくため「学生がん予防サポーター養成セミナー」を実施しています。

今年度も、福島学院大学と郡山女子大学において「学生がん予防サポーター養成セミナー」が行われ、本学教員を講師として派遣しました。

乳腺外科学講座大竹徹主任教授、立花和之進講師にそれぞれ乳がんをテーマに講義をいただき、延べ210名に聴講いただきました。



GEX e-NEWS

アリソン・ロイドウィリアムズ博士(ランカスター大学)らが来学しました

令和5年7月5日(水)にアリソン・ロイドウィリアムズ博士(ランカスター大学社会学講座名誉研究員・本学特任教授)、スティバ・アベイシング博士(エジンバラ大学国際健康政策部門長)、クレア・レポルド博士(メルボルン大学地域復興研究員)が来学し、竹之下誠一理事長兼学長と懇談しました。

懇談には、狭間章博副理事長、山下俊一副学長・国際交流センター長、後藤あや総合科学

教育センター教授が陪席しました。

後藤あや教授とロイドウィリアムズ博士、アベイシング博士、レポルド博士らの研究グループが現在、グレート・ブリティッシュ・ササカワ財団の資金提供を受けて、「健康と災害の倫理的研究：3.11とその先へ」というプロジェクトに協力していることに端を発し来学が実現しました。各所属大学間の国際協力の促進や研究メンバー同士の議論を促進することなどが主な目的です。



さらに、翌日の6日には、本学大学院医学研究科国際地域保健学において、災害と健康に関する研究倫理についての合同セミナーが開催され、ロイドウィリアムズ博士らに加え、上記研究グループの一人である尾崎章彦博士(常磐病院乳腺外科・本学特任教授)の4名から講演をいただきました。